

おわりに

長崎大学 薬学部薬学科教授

中 嶋 幹 郎

(戦略 GP 事業推進責任者)



平成21年4月に、私から、当時の本学医学部保健学科教務委員長の浦田秀子教授へ、「長崎県内の国公立3大学の中で薬剤師と看護職の養成課程を持つ学科が連携し、在宅チーム医療教育を行うプログラムを立ち上げ、文部科学省の大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム（戦略 GP）へ申請したいと考えているが、その企画へ是非とも協力してほしい」と相談を持ちかけたことから、私たちの連携は始まりました。その後、連携校である2つの大学を訪問し、その当時の学科長（長崎県立大学看護栄養学部看護学科長の松本幸子教授と長崎国際大学薬学部薬学科長の榊原隆三教授）へ、本取組の企画への参加を呼びかけたところ、「一緒にやりましょう」とのたいへん嬉しいお返事を頂戴することができました。こうやって3大学が連携する「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」組織の基盤ができたことで、5月に入ってから長崎県薬剤師会、長崎県病院薬剤師会、長崎県看護協会、長崎県医師会、長崎県福祉保健部の会長・部長の方々へ、3大学が連携して取り組む在宅チーム医療教育プログラムへの協力と「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」組織への参加をお願いしたところ、皆様から協力する旨の快諾をいただくことができました。非常に短い準備期間ではありましたが、5月のゴールデンウィーク明けには「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」の戦略 GP 申請書案を纏め上げ、長崎大学でのブラッシュアップの後、5月末に文部科学省へ申請書を提出致しました。しかし、薬看連携を軸として在宅チーム医療教育に取り組むという私たちの企画は、全く新しい試みであったため、私たちの中でも過去の実績に乏しいことが採択に向けての懸念材料でした。申請書提出までは、このような状況でしたが、幸い嬉しいことに平成21年7月に文部科学省からの採択通知が届き、本戦略 GP 事業に取り組むための本格的な組織作りに着手する運びとなりました。4ヶ月後の11月には、長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学の3大学が、長崎県薬剤師会、長崎県病院薬剤師会、長崎県看護協会、長崎県医師会、長崎県の地域の5団体と連携する「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」が正式に発足し、この3年間、本事業取組における推進母体としてその役割を十分に発揮してまいりました。私はこの間、本プロジェクトのリーダーとして平成21年5月に文部科学省へ提出した申請書の中に描いた事業計画を平成24年3月31日までの取組期間中にしっかりと展開し、十分な成果を上げることを精一杯考え、その役割を担ってまいりました。私たちが展開してまいりました取組の内容や成果については、これまでに皆様ご紹介されたとおりで、戦略 GP の当初の目標は十分に達成することができたと考えております。

文部科学省の支援の下での戦略 GP による事業は平成23年度末で終了致しますが、本コンソーシアムの活動は引き続き平成24年度以降も継続してまいります。今後は、この3年間の実績を基に、これまでの試みを継続的なプログラムとして大学の教育・研究・社会貢献の中に活かすとともに、地域の医療・福祉分野における人材育成に一層貢献できるように努力してまいり所存です。

最後に、本戦略 GP 事業におけるプログラムの実施に快く協力していただきました実習訪問先の療養者やご家族の皆様をはじめ、プログラムの実施を支えてくださいました学内外の関係者の皆様並びにプログラムへ参加していただいた学生や社会人の皆様に対して心から御礼を申し上げますとともに、今後とも「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」の活動に対するご支援を賜りますようお願い申し上げます。

